ハンドボール競技におけるグループ攻撃戦術の構造と分類に関する研究
―動きながらのポジション攻撃における連携プレーに着目して―

白旗　成　(1508037)

〈序論〉

研究動機・先行研究の検討・研究目的・研究方法

チームスポーツであるハンドボールにおいては、多様に変化する情況の中で互いの技術を、それぞれの戦術に基づいて駆使しあって、対決するという特徴をもっている。それぞれの局面打開のための戦術を考察の対象とすることは、ゲームに生きてくる競技力の育成に多大な利益をもたらすことになると考えた。また、動きの質的側面からの分析は、ゲームに生起するさまざまな情況を説明することに迫るものである。このような点に着目してゲーム分析を行うことで、今後の実践的活動に役立てたいと考えた。

ハンドボールはチームとしていかに合目的で機能的に行動できるかにかかっているのであり、戦術的なゲーム行動が求められてくるのである。ところがハンドボールの技術については詳細に論じられているものの、戦術については体系的な理論が確立されているとはいえない。このことについて、戦術行動の把握のための基礎的な理論を模索していくことが求められる。

本研究では運動学的な立場に基づいて、運動の質という観点から分析していくため、マイネルの運動モルフォロギー的考察法を明らかにしていく。また、実際のゲームに見られる、さまざまなグループの動きのなかに働く機能を分析し、戦術として類型化していくことが本研究の目的である。その方法は、平成 23 年度全日本学生ハンドボール選手権において上位に進出した大学を観察の対象とし、セットでの攻撃におけるグループ戦術の動きの構造という視点から分析を行って、典型的な情況を抽出していく方法をとる。運動モルフォロギー的考察法を基盤としたゲーム観察を行い、印象分析によって間主観的に分析していく。そして、それらの戦術を類型化していくことである。

〈本論〉

第 1 章　ハンドボール競技の特性

ここでは、ボールゲームとしてのハンドボール競技の特性についてまとめた上で、グループ戦術について述べる。ハンドボールゲームの活動の目標は、ボールを手で相手チームのゴールに投げ入れ、自分のゴールを相手の攻撃から防御することにある。グループ戦術はゲームの一場面をつくるときの内容にかかわりをもつものであり、基本的な共同プレーは攻防のゲーム情況を解決するため、2 人のプレイヤーが行うさまざまな共同作業であり、これは基本コンビネーションである。また、連携プレーにおける準備と終結の行為は、いくつかの基本コンビネーションのつながりからなるものである。

第 2 章　ゲームの運動観察法

ここでは、ゲームの観察方法として運動モルフォロギー的考察法を用いる。その際、呈示した観察法から、自由観察法およびフィルム・ビデオによる観察法を用いて考察していく。他者観察の不可欠な前提条件となる印象分析と運動共感を行い、グループ攻撃戦術において特に重要な関わりをもつ〈運動の局面構造〉、〈運動の先取り〉の 2 つのカテゴリーを中心に運動構造を理解していく。その際、モルフォロギー的運動分析は印象分析の中に隠されている事実や徴表や関係を確認させてくれる。印象分析を行う上で、より客観的な観察を行うために「共同観察」によって研究を進めた。

第 3 章　ゲームの運動観察の実際

全日本学生ハンドボール選手権大会のセットオフェンス場面おいて、グループ攻撃行動が際立って見られた例は 10 となった。動きながらのポジション攻撃における連携プレーという視点から観たとき、それらはいくつかの典型例として分類できる。抽出した 10 の例はボールゲーム指導事典を参考に 4 つの類型に大別でき、さらに下位の構造へと分類できる。それらが以下に示したものである。

A)ポジションの保持型

――時的にしめたポジションで有利な位置にフリーで走る

〔1〕パスアンドランによる突破…センター＋右 45 度＋ポスト

〔2〕パラレルからポストフリー走による突破…右 45 度＋センター＋左 45 度＋ポスト

〔3〕タップパスによる突破…左 45 度＋センター＋左サイド

B)1 人のプレイヤーだけのポジションチェンジ型

―ボールを保持しないプレイヤーが別のポジションに瞬間的にフリーで走る

〔4〕左 45 度ポジションチェンジによる突破…右 45 度＋左 45 度

〔5〕右サイドポジションチェンジによる突破…センター＋右サイド

C)2 人かそれ以上のポジションチェンジ型

―複数のプレイヤーが別のポジションにフリーで走る

〔6〕ダブルポジションチェンジからパラレルによる突破…センター＋ポスト＋右 45 度＋左 45 度＋左サイド

〔7〕ダブルクロスとパラレルカットインによる突破…ポスト＋右 45 度＋センター＋左 45 度＋左サイド

D)ポジションチェンジを伴うブロック型

―DF に対して自分の身体でさえぎり味方プレイヤーにフリーで走らせる

〔8〕センターポジションチェンジからダブルパラバンを利用した突破…センター＋ポスト＋右 45 度＋右サイド

〔9〕センターポジションチェンジから左 45 度とポストのねじれによる突破…センター＋ポスト＋右 45 度＋左 45 度

〔10〕センターと左 45 度クロスからブロックを利用したカットインによる突破…センター＋ポスト＋左 45 度

〈結論〉

本研究においてはグループ攻撃戦術の構造を動きながらのポジション攻撃における連携プレーに着目して観察し、類型化することができた。抽出された典型的な例は 10 あり、それぞれ 4 つに分類した。しかしながら、その 4 つの類型の中にあってもさらに下位構造に細分化されることが明らかである。そこで、それぞれの戦術の動きの構造がイメージされるような名称を付している。このような類型に典型的な運動経過が見られることを明らかにしたことによって、戦術はかたちあるものとして学習の対象にもなろう。

(引用・参考文献省略)